



今日の「インターンはこんな感じ」

こんな企業様でインターンをしています！

株式会社 S 様



株式会社 S 社 はどんな会社？

□事業内容

- 健康に関するセレクトショップをネットで運営しています。
- オーダーメイドの靴店「銀座大靴工房」銀座で店舗運営しています。

□設立 平成7年3月

□所在地 大阪市天王寺区

□社員数（受け入れ当時）

社員約 9 名

□契約内容

インターン週3日×1名

□なぜインターン総研に依頼されたのか？

「新人の教育修行」

インターンシップ生を今まで受け入れたことが無かったので、試してみたかったこともあります。主な理由は「どういう事」を「どうやって」新人に伝えていったら良いか自分自身の社員教育の練習として受け入れました。

□インターン生の仕事

社員と変わらない仕事を一緒にしていました。

買い物をお客様に伝えるための新聞づくりまで。

また、ビデオなどの教材を使っのスタッフ全員でのディスカッションへの参加も大事な仕事として、やっていただいていた。

代表取締役 I 様のお話

私が経営をする上で一番大切にしているのは社員です。株式会社Sは何をしている会社なのかを聞かれたら「人を育てる会社」と伝えたい。

私たちが主に運営しているサイト「J. COM」(仮称)にも人を成長させるための要素を取り入れていきます。例えば、健康に関する物を全て売るとなると「メガストア」ではなく目利きした商品のみを販売している「セレクトショップ」形式で運営していること。手当たり次第に売ってあげれば、もちろん沢山の方が購入をしてくださいます。

コンセプトに合う物であれば何でも売るのであれば、社員は特に考えずにドンドン仕入れて、ドンドン売ってあげたい。これが「メガストア」の考え方ですよね。

「社員は特に考えず」？

これでは人は本当に何も考えず、ロボットの様に働くだけになってしまう。つまり、人間として成長をしていないということだと思います。もちろん楽しい仕事でもなくなってしまいます。これは私が目指しているトコロではありません。だから、目利きが必要な「セレクトショップ」を運営して自分で「良いもの」を見分ける力を付けて行って欲しい。

将来的には、「J. COM」を中心にして、社員それぞれが自分のお店を持ってもらえたら良いですね。

□プレゼンの上達の仕方～ I 流～

自分の考えたことは近くにいるスタッフにもプレゼンをする気持ちで話し、反応を見ながらブラッシュアップして、大舞台でも話せるような内容に話しを練って行きます。実は自分の考えを周囲に話すことには他の効用があるんです。

私が今考えていることが分かることで、社員を楽しい気持ちにさせたい。社員が楽しい気持ちで仕事をすれば商売が楽しくなる。商売が楽しくなるということは、経営が楽しくなる事。つまりいい循環をつくり出して行くことが出来る訳です。

それからテレビからも勉強することが沢山あります。島田紳助さんの話術、ピン芸人陣内智則さんのビデオを利用したのコント。やっぱり売れている芸人さんは間の取り方がうまいですね(笑)

□インターン生にメッセージ

「思い立ったらすぐに行動を」

折角、思いついたのに考えてスタートが遅れてしまったら、気がついたときには他の人がゴールテープを切っちゃってたりします。誰もが始めは素人なんです。失敗をおそれず、「やりたい！」と思った瞬間にチャレンジをする勇気をもって行動してください！

インターン生の方はこんな方です

インターン生のご紹介

- 大学 同志社大学
- 職務 ネットショップ運営補助
- 氏名、性別 濱野真実 女性

インターンを経てて…

初めはインターンシップはアルバイトの延長だと思っていました。今思うと浅はかな考えだったなあとと思います。

インターンを経験して感じたことは、いろいろな人や考え方があんだなということ。私がインターンをさせていたいただいた株式会社S 様はインターネットショップを運営しておられる企業でした。

今までは直に人と接する「接客」のアルバイトをしていた私にとって、相手が見えない「接客」の仕事は興味深く、インターン総研のスタッフさんにお話を頂いたときは好奇心で「やりたい」と思って、面接を経ていただくことになりました。

目に見えない相手への接客は、特有のきめ細やかなサービスを求められていて、最初はとまどいもありましたが段々となれていきました。

インターンというやはり、就業体験なのでお仕事をさせていただきただけだと思っていたのですが、株式会社S社の社長は「仕事以外からも何かを学んでほしい」と考えてくださって、私たちインターン生に「自己啓発」の機会を与えてくださいました。

多分、インターンをしなかったら、こういった自己啓発の考えに触れることはなかったかも知れません。そういった意味でもインターンという経験ができたこと、株式会社Sの社長や社員さんパートさん達、紹介して下さったインターン総研さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

ここまで書くとも問題なく終わった感じですが、インターンでは辛いこともありました。

同じ時期に入ったもう一人のインターン生の方と最後まで良い関係を築くことは出来ませんでした。人間関係でつまつた経験が今まで無かった私にとってはすごく辛かったです。

辛くて逃げたいときもあったけど、最後までやり抜く事ができたのはインターン総研の担当者の方や友人達からの支えとあってくださったからです。

インターンが終わってしばらく経った今、改めてインターンを振り返ると「良かった経験」としてよみがえってきます。やっぱりやって良かったという気持ち強いのかな…？？時が経つてすごいですね。

社会を知るという意味でもインターンという機会を与えていただけたことに感謝しています。本当にありがとうございました！！

インターンシップ総合研究所からの声

インターン総合研究所担当者：

濱野さんとの出会いは2006年(現時点では昨年)の7月でした。

始めの印象は好奇心旺盛！大学のサークルの中でも隠れた存在のかくれんぼサークルを人づてに聞いて探し出し2回生で入部した、というエピソードがあります。

「インターンでアルバイト」

これはインターンシップ総合研究所へ登録にお越し頂いた方全員にお話していますが、やはり実際に働いてみると違いが分かりやすいようです。

濱野さんはインターン最中に業務とは別のことでとても悩まれていました。その事実を知ったのはインターン期間の半ばの事です。その時、インターン期間残り1ヶ月半。学生が本分のインターン時代には辛いことがあったら「学業」という逃げ道がありますが、濱野さんは悩みながらも2月末の期間まで続けてくださいました。

インターン終了の日に日報を頂いた時の安堵感。心から「おめでとう！」と言うことができたインターンシップでした。

この春から4回生で就職活動も一段落したところのようですが、1・2月はエントリーシート記入やセミナーに参加しながらのインターンシップで、時間管理も大変だったのではないのでしょうか。

最後まで続けることが出来た「力」をバネにこれから先、どんな悩みに当たっても、乗り越えていっていただきたいと思っています！

いつまでも濱野さんを応援しています☆